

珍しい駅名いろいろ

関東ローカル鉄道にある“珍しい駅名”をご紹介します!

地域鉄道は、地域の足として歴史ある路線が多いことも特徴のひとつです。歴史があるからこそ、古くからある地名などがそのまま駅名として使われ、現代の我々にはちょっと珍しく感じられたり、読み方がわかりにくいこともあります。そんな駅名を発見し、その地域の歴史や文化に思いを馳せるのも地域鉄道の楽しみ方。今回は、関東の地域鉄道にある珍しい駅名をいくつかご紹介します。今度のお休みには、新しい地域鉄道の魅力発見の旅に出かけませんか? お出かけの際のおトクな情報は、各社ホームページに掲載中です。是非ご覧ください。

☆☆ 関東運輸局と鉄道会社より ~ご注意とお願い~ ☆☆

※ご紹介しているイベント等の詳細につきましては、主催者HP等でご確認ください。
※写真の撮影を楽しまれる場合は、列車往来に十分注意していただくとともに、鉄道会社係員の指示に従ってマナーを守り、安全にお楽しみいただくようお願いいたします。他のお客様に迷惑をかける行為や危険な行為、列車の運行を妨げる行為、線路内や鉄道事業者が立入禁止とする箇所への立ち入りは絶対におやめください。



「南蛇井」駅 ~上信電鉄(群馬県)~



思わずびっくりしてしまう駅名の「南蛇井」駅は、明治30年(1897)7月7日に開業した駅です。私鉄の駅で「蛇」が付く駅が他にないことから、干支が蛇年の年には記念乗車券が販売されたこともあります。

地名の由来は、川の幅が広いところというアイヌ語「ナサイ」が語源という説と、周辺の井戸から大蛇が現れたことにちなんでいるという説があります。「ナサイ」と呼ばれていた地名は、古墳時代~中央集権国家成立の頃には「那射(ナザ)郷」となり、更に転じて「なんじゃい」になり、そこに「南蛇井」という漢字をあてたとも言われています。奈良時代には、すでに南蛇井氏という豪族が存在していたようです。

→上信電鉄HP <http://www.joshin-dentetsu.co.jp/index.htm>



「鱒ヶ崎」駅 ~流鉄(千葉県)~

鱒ヶ崎(ひれがさき)と読みます。魚へんなので、「すしがさき」や「あじがさき」と読み間違われる方も多いそうです。この珍しい地名は、弘法大師が突然現れた竜の捧げた木で薬師如来を刻んだ際に、竜の鱗の先が少し残ったという逸話に由来するといわれています。

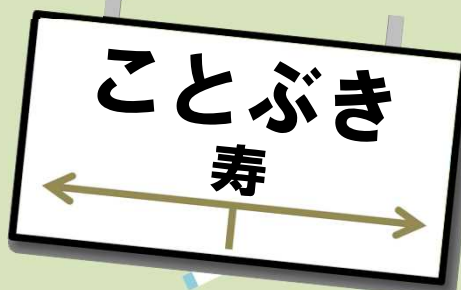
→流鉄HP <http://ryutetsu.jp>



「寿」駅 ~富士山麓電気鉄道(山梨)~

開業当時は「暮地(くれち)」という名前でしたが「墓地」と似ていることから、今後の発展を祈りおめでたい名前「寿」に改称されました。この駅の入場券は「寿入場券」として、幸せへの入場ということで結婚式やお祝いの席などで大変好評です。(寿入場券は富士急行線有人駅にて販売しています)

→富士山麓電気鉄道HP
<http://www.fujikyuu-railway.jp/>



おじかこうげん 男鹿高原

「男鹿高原」駅 ～野岩鉄道（栃木県）～



昭和61年10月に開業した無人駅です。高原の中に静かにたたずむ栃木県で最北端の鉄道駅で隣駅は福島県南会津町（会津高原尾瀬口駅）になります。

雑誌等でも「何もない駅」として紹介されるほど周囲に何もなく、聞こえてくるのは、谷川のせせらぎ、鳥のさえずり、風に揺らぐ木々の葉音のみです。

※駅には訪れる人が思ったことを記入するノートがあります。これを読むのも楽しいと思います。

→野岩鉄道HP <http://www.yagan.co.jp/>



とばのえ 騰波ノ江

「騰波ノ江」駅 ～関東鉄道（茨城県）～



「大宝」駅 ～関東鉄道（茨城県）～

駅名の由来は、当駅の近くに関東最古の八幡宮である大宝八幡宮があることから、「大宝」という駅名になりました。縁起の良い駅名であるため、入場券をお守りにした「開運大宝入場券」が人気です。

→関東鉄道HP <http://kantetsu.co.jp/>



「富士山下」駅 ～上毛電気鉄道（群馬県）～

駅名の由来は、万葉集に「鳥羽の淡海（おうみ）」と歌われている大きな湖沼が存在したことから、「騰波ノ江駅」と名付けられました。写真は2008年に建て替えられた新駅舎ですが、旧駅舎は「関東の駅100選」に認定されていました。

ふじやました 富士山下



「本銚子」駅 ～銚子電鉄（千葉県）～

山梨県と静岡県に跨る富士山（ふじさん）の山麓にある駅と勘違いして訪れてしまう外国人観光客が年間数人見受けられ、特に富士山が世界遺産に指定された際には、メディア等で注目を集めてしまいました。

名前の由来は、群馬県桐生市の富士山（ふじやま）の山麓にある駅ということであり開業当初（1928年）から変わらない駅名です。

→上毛電鉄HP <http://www.jomorailway.com/>

もとちょうし 本銚子

「本銚子」駅 ～銚子電鉄（千葉県）～

「ほんちょうし」と読むことができる為、験担ぎの駅としても有名です。また、近年は（銚子方面の列車が上りとなる）「上り銚子開運切符」が人気となっています。

→銚子電鉄HP <http://www.choshi-dentetsu.jp/>



ごうど 神戸

「神戸」駅 ～わたらせ渓谷鐵道（群馬県）～

「神戸（こうべ）駅」と読むことができるため、開業当初は、兵庫県神戸市にある東海道本線・山陽本線 神戸駅との混同を防ぐため、本来の地名とは別の漢字を用いて「神土（ごうど）駅」と名付けられました。その後、わたらせ渓谷鐵道への転換時に本来の地名にあわせ「神戸（ごうど）駅」に改称されました。

→わたらせ渓谷鐵道HP <http://www.watetsu.co.jp/>



そうり 沢入

「沢入」駅 ～わたらせ渓谷鐵道（群馬県）～

駅舎内に簡易郵便局を併設した難読駅です。無人駅扱いのため、郵便局で乗車券を購入する事はできません。下りホーム側には、東屋や遊歩道などが整備されています。



「飯給」駅 ～小湊鐵道（千葉県）～

18駅ある内の最も利用者の少ない一日平均乗降5人の小さな駅ですが、春の桜と菜の花は絶景ポイントです。地名の由来は、かつて、この地を弘文天皇が訪れた際、地元の方々が食事を捧げたことから「飯給」の名を与えたと云われています。駅構内には畳120畳分の広さのある女性専用のガラス張りのトイレがあります。



いたぶ 飯給

あまありき 海士有木

「海士有木」駅 ～小湊鐵道（千葉県）～

無人駅ですが駅舎は大正時代に建築されたもので、2017年5月に国の登録有形文化財に登録されました。地名の由来はかつて、海士村と有木村が一つになって、この地名がつけました。海士は、その昔、漁夫の（海人）の集落、有木は付近に蟻木城があった為 その名がつけました。

→小湊鐵道HP <http://www.kominato.co.jp/>

たかだのてつきょう 高田の鉄橋



「高田の鉄橋」駅 ～ひたちなか海浜鐵道（茨城県）～

2014開業の新駅です。駅のそばを流れる中丸川の鉄橋は正式名称を「中丸川橋梁」といいますが、古くから地元では「高田の鉄橋」と呼ばれ親しまれてきました。高田とは駅付近のかつての字名で、現在は地名として残っていません。

なお、ひたちなか海浜鐵道の駅名標には、漢字の中に各駅の名物や特徴を示したイラストが描かれています。高田の鉄橋駅は、駅名の「高田」と「鉄橋」をそれぞれ両側の岸に見立て、両岸間を鉄橋で渡る列車をイメージしています。

→ひたちなか海浜鐵道HP <http://www.hitachinaka-rail.co.jp/>





おはなばたけ 御花畑

「御花畑」駅 ～秩父鉄道（埼玉県）～

秩父～影森間の開通に伴い大正6年に建設された木造平屋建ての駅舎です。
 (国)登録有形文化財 平成16年2月17日登録
 御花畑駅の名称の由来
 秩父夜祭で屋台が集まる「御旅所(おたびしょ)」の美称である「お花畑」から駅名がつけられました。芝桜の丘の最寄り駅として2009年に副駅名「芝桜駅」がつけました。
 →秩父鉄道HP <http://www.chichibu-railway.co.jp/>



とうのへつり 塔のへつり

「塔のへつり」駅

駅から徒歩3分程度の場所にある景勝地「塔のへつり」(川の浸食によって塔が立ち並ぶような景観のある断崖で、国の天然記念物)が駅名の由来。「へつり」とは会津方言で、断崖のことを指します。2002年(平成14年)、東北の駅百選に選定されました。
 →会津鉄道HP <http://www.aizutetsudo.jp>



あいづさんそんどうじょう 会津山村道場

「会津山村道場」駅 ～会津鉄道（福島県）～

思わず山奥にある修行が厳しそうな道場を想像してしまう駅名ですが、近隣にある南会津町が運営する野外活動施設の名称が駅名の由来です。駅は施設が改修される2001年に開業し、意外に歴史は浅いです。

ちょうじゃがはましおさい はまなすこうえんまえ 長者ヶ浜潮騒 はまなす公園前

「長者ヶ浜潮騒はまなす公園前」駅 ～鹿島臨海鉄道（茨城県）～

南阿蘇鉄道「南阿蘇水の生まれる里白水高原駅」と並び、読みかなの字数が日本一長い読みの駅(※当初掲載時。令和2年3月より東日本一となりました。)として有名です。かつて大野村(当時)にあった長者ヶ浜海水浴場と、近隣の大野潮騒はまなす公園が駅名の由来となっています。
 →鹿島臨海鉄道HP <http://www.rintetsu.co.jp/>



くげぬま 鵜沼

「鵜沼」駅 ～江ノ島電鉄（神奈川県）～

かつて、この地域には沼が点在し、鵜(くぐい=白鳥のこと)が飛来したことが地名の由来とされ、その地名がそのまま駅名となっています。その沼はほとんどが埋められてしまいましたが、現在でもかつての沼が公園内に残されており、その名残を見ることが出来ます。
 →江ノ島電鉄HP <https://www.enoden.co.jp/>





「五百羅漢」駅 ～伊豆箱根鉄道(神奈川県)～

駅の付近にある小田原北条氏建立の寺、玉宝寺(ぎょくほうじ)に由来する駅名です。玉宝寺は通称「五百羅漢」と呼ばれ、526体の羅漢像が安置されており、拝観も可能です。全国にはいくつか五百羅漢がありますが、駅名となっているのはこの小田原の五百羅漢のみです。

→伊豆箱根鉄道HP <http://www.izuhakone.co.jp/railway/index.html>

ごひゃくらかん
五百羅漢



ふさもと
総元



「総元」駅 ～いすみ鉄道(千葉県)～

明治22年に三又村など10村が合併し総元村となり、その中心地が現在の総元駅周辺でした。現在は、大多喜町となり、地名は残っていませんが、難読駅名として有名です。大多喜駅から延伸開業した昭和5年から上総中野まで延伸する昭和8年までの間は、国鉄木原線(いすみ鉄道の前身)の終着駅でした。

→いすみ鉄道HP <http://www.isumirail.co.jp>



もおか
真岡



「真岡」駅 ～真岡鐵道(栃木県)～

SLの運行が有名な真岡鐵道の社名にもなっている「真岡」ですが、「まおか」ではなく「もおか」と読みます。しかし、歴史上は「まおか」や「もうか」とされていた時代もあり、その地名の由来も、複数の説はあるものの確たるものが無いそうです。駅舎はSLをかたどっており、関東の駅百選にも選定されています。また、構内にはSL保存施設キューロク館を始め、たくさんの旧型鉄道車両が留置され、鉄道ファンを楽しませてくれます。

→真岡鐵道HP <http://www.moka-railway.co.jp/>



いなずさ
稲梓



「稲梓」駅 ～伊豆急行(静岡県)～

現在は下田市内に駅がありますが、かつてこのあたりは稲梓村という地名だったのでその名残が駅名として残っています。山あいにたたずむ小さな駅は、映画ロケ地の駅として人気です。

少し歩くと、きれいな湧水「ひや水」もあります。

→伊豆急行HP <http://www.izukyu.co.jp/>



ごうら
強羅



「強羅」駅 ～箱根登山鐵道(神奈川県)～

温泉地として有名な箱根にある強羅駅は、火山活動が活発なことから岩がゴロゴロしており、それがなまって「ごうら」という地名になったという説があります。※ほかにも諸説あります。

箱根登山電車の運行は当駅までで、ここから先の早雲山駅までは箱根登山ケーブルカーに乗り継ぎとなります。

→箱根登山鐵道HP <https://www.hakonenavi.co.jp/>

ほかにも関東地方の地域鐵道各線には、ご紹介しきれないほどたくさんの珍駅名・難読駅名や魅力的なスポットがあります。

ぜひその駅まで行って、ヒントを探しながら駅名の由来探しの旅を満喫してください。地域鐵道各社は魅力を満載して皆様のご乗車をお待ちしています!

